

2 4 6 5 5 - 1 9 9 8

令和 4 年 3 月 2 5 日

公益社団法人宮崎県医師会長 殿

宮崎県福祉保健部長

(公 印 省 略)

宮崎県HPVワクチン接種後有症状時 相談体制・医療体制について

本県の予防接種行政については、日頃から御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、HPVワクチンについては、基本的に令和4年4月より順次個別の勧奨が再開されるところですが、接種後に症状がでた場合の相談体制・医療体制について、別添資料1～4のとおり整理するとともに、接種医療機関に改めて御理解いただきたい内容を別紙のとおりまとめましたので送付します。

つきましては、内容を御了知いただきますとともに、貴会員への周知について御配慮くださるようお願いいたします。

なお、新たにHPVワクチンの定期予防接種を実施いただく場合は、医療機関が所在する市町村の予防接種窓口にご連絡くださるよう、併せて御周知をお願いします。

(文書取扱 健康増進課感染症対策室)

感染症対策担当 永田

電話 0985-44-2620

FAX 0985-26-7336

24655-1998
令和4年3月25日

各 市 町 村 長 殿

宮崎県福祉保健部長
(公 印 省 略)

宮崎県HPVワクチン接種後有症状時 相談体制・医療体制について

本県の予防接種行政については、日頃から御理解と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、HPVワクチンについては、基本的に令和4年4月より順次個別の勧奨が再開されるところですが、接種後に症状がでた場合の相談体制・医療体制について、別添資料1～4のとおり整理するとともに、接種医療機関に改めて御理解いただきたい内容を別紙のとおりまとめましたので送付します。

つきましては、内容を御了知いただきますとともに、貴管内の予防接種実施医療機関へ周知くださるようお願いいたします。

なお、新たに接種医療機関が追加になる場合は、接種開始前に必ず本通知の内容をお知らせくださいますよう、併せてお願いします。

(文書取扱 健康増進課感染症対策室)

感染症対策担当	永田
電話	0985-44-2620
FAX	0985-26-7336

宮崎県 HPV ワクチン接種後有症状時 相談体制・医療体制について

令和 4 年 3 月

宮崎県福祉保健部

1 それぞれの機関の役割について

1) 市町村の役割

(1) 被接種者・保護者の全般的な相談窓口・支援

- ・接種後有症状時、まずは接種医療機関への受診を案内
- ・被接種者・保護者からの相談について、必要時、「予防接種後に発生した症状に関する報告書（保護者報告用）」に記入を促すとともに、都道府県を通じて厚生労働省へ提出
- ・予防接種健康被害救済制度の案内
- ・必要時、学校や市町村教育委員会と連携（学校生活や学習支援について）

(2) HPV ワクチン接種実施医療機関（以後ワクチン接種医療機関）の相談窓口・支援

- ・専門性の高い診療が必要な場合は、宮崎大学医学部附属病院 HPV ワクチン接種副反応外来（以後 宮崎大学接種副反応外来）への紹介を案内
- ・副反応疑い症状診断時は、（独）医薬品医療機器総合機構へ「副反応疑い報告書」の提出を促す。

2) ワクチン接種医療機関の役割

(1) 接種後有症状時の診察・応急処置・治療

- ##### (2) 接種後有症状のうち、対応困難な場合、
- 宮崎大学接種副反応外来に相談・紹介

3) 宮崎大学接種副反応外来の役割

(1) ワクチン接種医療機関の相談に対する支援

(2) ワクチン接種医療機関で対応困難な場合の紹介受入

(3) 県感染症対策課・宮崎市・市町村からの紹介受入

ワクチン接種医療機関からの紹介受診がどうしても困難な場合等に限る。

4) 宮崎県・宮崎市の役割（衛生部門）

(1) 被接種者・保護者からの相談に応じた適切な窓口の案内

- ##### (2) 接種後有症状時、ワクチン接種医療機関から宮崎大学接種副反応外来への紹介が困難な場合等の宮崎大学接種副反応外来への相談・紹介

5) 宮崎県・宮崎市の役割（教育部門）

(1) 学校の相談窓口・支援

- ##### (2) 被接種者・保護者からの相談窓口（学校への相談が困難な場合等）

宮崎県 HPVワクチン接種後有症状時 相談体制・医療体制

資料 2



宮崎大学医学部附属病院
(副反応外来)

OFFICE

県感染症対策課
(衛生部門相談窓口)

必要時
情報共有・連携

必要時
情報共有・連携

県スポーツ振興課
(教育部門相談窓口)

情報共有
相談・支援



学校

情報共有
相談・支援

市役所

市町村教育委員会

市町村
(予防接種実施主体)

接種医療機関に
相談ができない方の
相談・受入

学校への相談が
困難な場合の
相談・支援

学習面や
学校生活の
相談・支援

全般的な
相談・支援

接種医療機関に
相談できない方の
相談・支援

被接種者・保護者

情報共有
相談・支援

接種後症状
相談・診療

紹介患者の治療経過報告

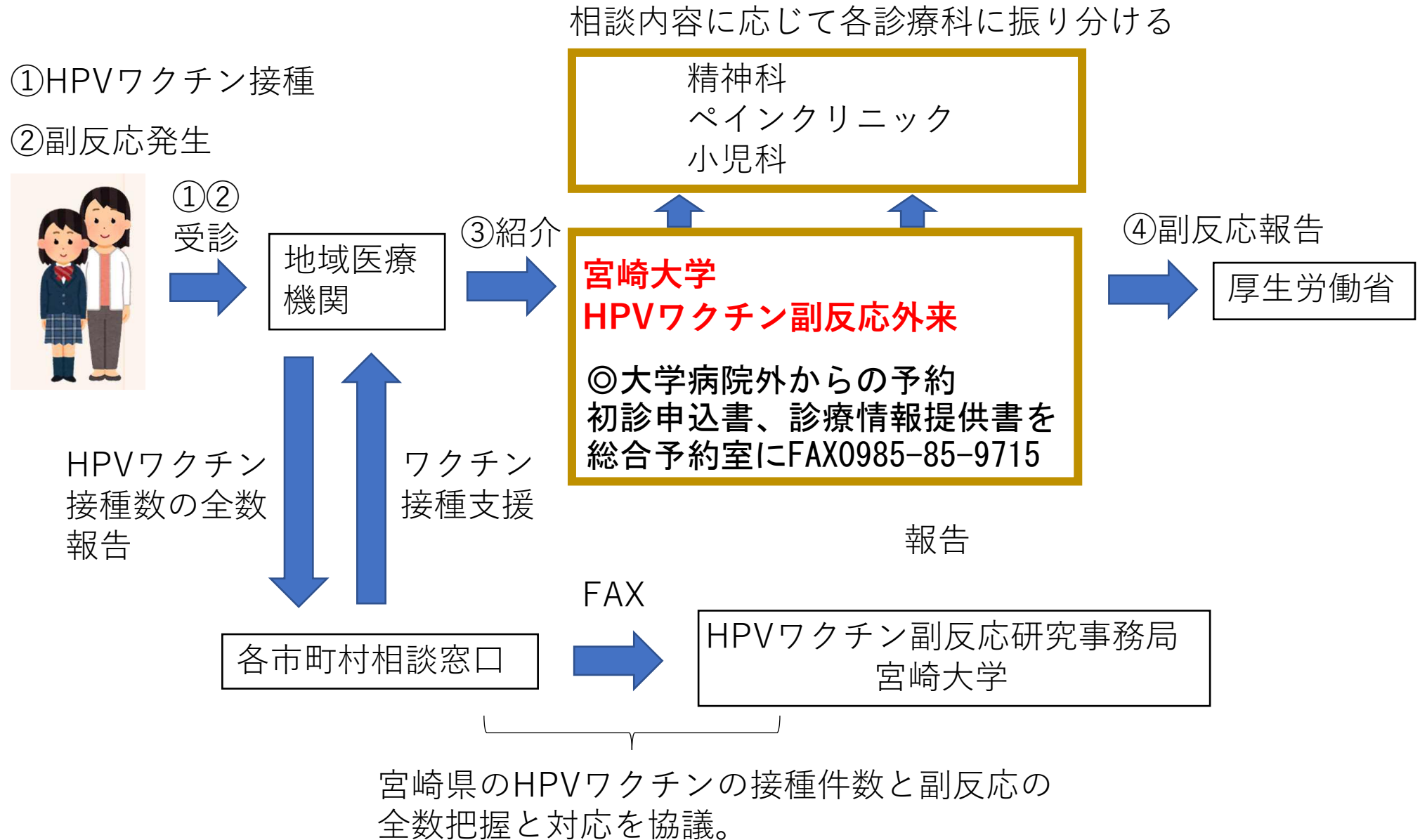
接種後有症状者の
相談・紹介・診療



接種医療機関

宮崎県におけるHPVワクチン副反応発症時の対応

資料 3



【ワクチン接種の全般的なこと（市町村又は接種した医療機関）】

市町村名	担当部署	連絡先
宮崎市	親子保健課	0985-73-8200
都城市	都城市保健センター	0986-36-5661
延岡市	地域医療政策課	0982-22-7066
日南市	こども課	0987-31-1131
小林市	健康推進課	0984-23-0323
日向市	こども課	0982-66-1021
串間市	福祉事務所	0987-72-1123
西都市	健康管理課	0983-43-1146
えびの市	こども課	0984-35-3739
三股町	町民保健課	0986-52-8481
高原町	ほほえみ館	0984-42-4820
国富町	保健介護課	0985-75-3553
綾町	福祉保健課	0985-77-0195
高鍋町	健康保険課	0983-23-2323
新富町	いきいき健康課	0983-33-6059
西米良村	福祉健康課	0983-36-1114
木城町	福祉保健課	0983-32-4010
川南町	町民健康課	0983-27-8009
都農町	健康管理センター	0983-25-1008
門川町	健康長寿課	0982-63-1140
諸塚村	住民福祉課	0982-65-1119
椎葉村	福祉保健課	0982-68-7510
美郷町	健康福祉課	0982-66-3610
高千穂町	保健福祉総合センター	0982-73-1717
日之影町	日之影町保健センター	0982-73-7521
五ヶ瀬町	福祉課	0982-82-1702

【接種後症状が生じた方（県庁（宮崎市居住以外の方）・宮崎市（宮崎市居住の方））】

- 接種後の症状等で御不安な方は、まずは、接種した医療機関に御相談ください。
- 学校生活等で御不安な方は、まずは、通っている学校に御相談ください。

※上記の相談が困難な場合は、以下の連絡先に御相談ください。

衛生部門…受診等に関すること、教育部門…学校生活に関すること

部門	所属	連絡先
県(衛生部門)	福祉保健部感染症対策課	0985-44-2620
県(教育部門)	教育庁スポーツ振興課	0985-26-7248
宮崎市(衛生部門)	子ども未来部親子保健課	0985-73-8200
宮崎市(教育部門)	教育委員会保健給食課	0985-85-1837

【協力医療機関（接種後症状を有する方に対する地域の医療機関からの紹介受診対応）】

※受診するには、地域の医療機関からの紹介予約が必要です。

病院名	紹介方法	連絡先
宮崎大学医学部附属病院	紹介元医療機関より総合予約室に電話・FAX	電話：0985-85-1225 FAX：0985-85-9186

HPVワクチンを接種するにあたって（接種医療機関へのお知らせとお願い）

1 予防接種実施について

- 1) 予防接種実施主体：市町村（接種にあたり不明な点は、各市町村の窓口へ相談）
- 2) 被接種者・保護者への説明資料
 - ・令和4年2月24日付け改訂厚生労働省リーフレット
 - ①被接種者と保護者向け概要版
 - ②被接種者と保護者向け詳細版
 - ③医療従事者向け
 - ・「子宮頸がんワクチンの積極的勧奨が始められました」チラシ（参考資料1、参考資料2）
- 3) 接種時に被接種者・保護者に御説明いただきたいこと
 - ①接種前に必ず、リーフレットを用いて、有効性・安全性について説明を行った上で、接種をする。
 - ②接種後に注意することについて、リーフレット当を用いて説明する。
 - ③接種後30分は、院内で様子を見る。
 - ④接種後に気になる症状がある場合は、まずは接種した医療機関に相談することを伝え、資材を渡す。
 - ・令和4年2月24日付け改訂厚生労働省リーフレット
 - 「HPVワクチンを受けたお子様と保護者の方へ」
 - ・「宮崎県でHPVワクチンを接種された方へ」チラシ（参考資料3）
 - ⑤その他、市町村から依頼されていること
- 4) 接種間隔（1年以内に3回接種を終えることが望ましい）

【サーバリックス】

（標準）1回目から2回目→1か月あける。1回目から3回目→6か月あける。

※標準でできない場合

1回目から2回目→1か月以上あける。

1回目から3回目→5か月以上、2回目から3回目→2か月半以上あける。

【ガーダシル】

（標準）1回目から2回目→2か月あける。1回目から3回目→6か月あける。

※標準でできない場合

1回目から2回目→1か月以上あける。2回目から3回目→3か月以上あける。

2 接種後の症状への対応について

- 1) まずは、接種した医療機関で診療いただく。
- 2) より専門的な診療が必要と判断した場合は、宮崎大学医学部に紹介予約をする。
初診申込書・診療情報提供書を総合予約室にFAXする。
※総合予約室：0985-85-9715
※様式は、宮大のHPよりダウンロードいただく。
- 3) 副反応疑い報告について
副反応と思われる症状を診断した場合は、「予防接種後副反応疑い報告書」を作成しPMDAにFAXするか、電子システムにより報告する。
※PMDAのFAX番号：0120-176-146
※電子報告受付サイトURL：<https://www.pmda.go.jp/safety/reports/hcp/0002.html>

始まりました

子宮頸がんの発生

子宮頸がんの発生にはヒトパピローマウイルス（HPV）と呼ばれるウイルスが関わっています。女性の多くがウイルスに一度は感染すると言われており、日本では年間約1万人が子宮頸がん罹患し、約2900人の方がなくなっています。20代のがん罹患の9%、30代のがん罹患の13%を子宮頸がんが占め、子宮喪失する方もいます。

① 今からできること

日本では、小学校6年～高校1年生の女の子を対象にワクチン接種を提供しています。
カナダ、イギリス、オーストラリアなどでは女の子の約8割がワクチンを受け、子宮頸がんの発症は激減しています。

② 20歳になったらできること

HPVワクチンを受けていても、100%の感染予防はされませんので、子宮頸がん検診を受けることが大切です。

宮崎県

宮崎県では市町村と契約した医療機関でワクチン接種を受ける事ができます。

- ・ 現在、2種類のHPVワクチンのいずれかを公費で受けられます。
- ・ 半年から1年の間に3回接種を受けます。16歳未満の方が接種するには保護者の方の同意が必要です。
- ・ 公費の対象年齢外で受けると、ワクチンの接種費用は4～5万円です。
- ・ 接種できる医療機関は、市町村からの案内を御覧いただくか、市町村の予防接種窓口にお問い合わせください。

市町村の

窓口はこちら



HPVワクチンのリスク

多くの方に、接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こります。インフルエンザの予防接種と比べて痛みが強いと感じる方もいます。ワクチン接種を受けた後に、まれですが、重い症状が起こることがあります。広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動などの多様な症状が報告されています。接種後に重篤な症状として報告があったのは1万人あたり6名とされています。ワクチンを3回接種しますが、1回目、2回目に気になる症状が現れたら、以降の接種をやめることができます。

※接種後に症状があるなど不安のある方は、まずは、接種した医療機関に受診・相談してください。

HPVワクチンについてもっと詳しく知りたい場合は「HPVワクチンについて知って下さい：詳細版（右QRコード）」やその他のご案内をごらんください。↓



厚生省 HPV



宮崎県 HPV





子宮頸がん

ワクチン

積極的勧奨が

始まりました

子宮頸がんの発生にはヒトパピローマウイルス（HPV）と呼ばれるウイルスが関わっています。女性の多くがウイルスに一度は感染すると言われており、日本では年間約1万人が子宮頸がん罹患し、約2,900の方がなくなっています。20代のがん罹患の9%、30代のがん罹患の13%を子宮頸がんが占め、子宮喪失する方もいます。

1

今からできること

参考資料2

日本では、小学校6年～高校1年生の女の子を対象にワクチン接種を提供しています。カナダ、イギリス、オーストラリアなどでは女の子の約8割がワクチンを受け、子宮頸がんの発症は激減しています。

2

20歳になったりできること

HPVワクチンを受けていても、100%の感染予防はされませんので、子宮頸がん検診を受けることが大切です。

HPVワクチンのリスク

多くの方に、接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こります。インフルエンザの予防接種と比べて痛みが強いと感じる方もいます。ワクチン接種を受けた後に、まれですが、重い症状が起こる事があります。広い範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動などの多様な症状が報告されています。接種後に重篤な症状として報告があったのは1万人あたり6名とされています。ワクチンを3回接種しますが、1回目、2回目に気になる症状が現れたら、以降の接種をやめることができます。

※接種後に症状があるなど不安のある方は、まず、接種した医療機関に受診・相談してください。

HPVワクチンについてもっと詳しく知りたい場合は「HPVワクチンについて知って下さい：詳細版（下QRコード）」やその他のご案内をごらんください。

厚労省 HPV

宮崎県 HPV



HPV

宮崎県では市町村と契約した医療機関でワクチン接種を受ける事ができます。

- ・現在、2種類のHPVワクチンのいずれかを公費で受けられます。
- ・半年から1年の間に3回接種を受けます。16歳未満の方が接種するには保護者の方の同意が必要です。
- ・公費の対象年齢外で受けると、ワクチンの接種費用は4～5万円です。
- ・接種できる医療機関は、市町村からの案内を御覧いただくか、市町村の予防接種窓口にお問い合わせください。

宮崎県でHPVワクチンを接種された方へ (症状が生じた場合相談の流れ)

参考資料 3

予防接種を受ける



接種後は、
30分座って待機して、
様子をみてください。

△以下のような症状が出現するかもしれません△

[多くの人に起こる症状]

☐ 注射部の痛み・腫れ・赤み（数日以内）

[起こるかもしれない症状]

☐ 注射部のかゆみ・不快感・出血

☐ 発熱、筋肉痛、関節痛、めまい、腹痛、吐き気、疲労感

[まれに起こるかもしれない重い症状]

☐ じんましん・呼吸困難（1日以内）

☐ 手足の力が入りにくい

☐ 血が止まりにくい

☐ 発熱・頭痛・けいれん・運動まひ・意識もうろう（2週間以降）

まずは、すぐに接種した医療機関へ受診・相談を！

接種した医療機関で診療

より専門的な対応が必要

接種した医療機関で対応可

宮崎大学医学部附属病院
(副反応外来)
紹介受診・診療

接種した医療機関で
診療・経過観察

接種後の症状で、
学校生活について不安や気になることがあったら、
被接種者・保護者と相談しながら、
情報共有・連携

HPVワクチンを受けて
いても、100%の感染
予防はされませんの
で、子宮頸がん検診を
受けることが大切です。



学校

相談先に
迷ったときは？

【医療・相談窓口に関すること】 相談時間* 平日 8:30～17:15

(宮崎市以外の方) 県庁感染症対策課 電話: 0985-44-2620

(宮崎市の方) 宮崎市親子保健課 電話: 0985-73-8200

【学校生活に関すること】 相談時間* 平日 8:30～17:15

(宮崎市以外の方) 県教育庁スポーツ振興課 電話: 0985-26-7248

(宮崎市の方) 宮崎市教育委員会保健給食課 電話: 0985-85-1837

【予防接種全般・救済制度】
各市町村予防接種担当部署

